

令和2年度福島市社会福祉審議会

第1回児童福祉専門分科会 議事録

1 日 時 令和2年9月25日(金) 14:00～15:30

2 場 所 福島市保健福祉センター 4階 第1保健指導室

3 出席者 氏家 京子委員、吉田 務委員、渡辺 真紀委員、栗花澄子委員、
神戸 信行委員、古関 久美子委員、後藤 あや委員、紺野 淳委員、
安齋 節子委員、立花 由里子委員、田辺 稔委員、野地 妙子委員、
細谷 實委員、山崎 麻弥子委員、山田 和江委員、大和田 誠委員
菊田 由香委員 (計17名)

4 内 容

(1) 開 会

(2) 議 事

①第1期福島市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況(令和元年度実績)について
資料1に基づき、事務局より説明

【質疑応答】

○委員 ファミリーサポート事業の利用者が減ったのは、何かサービスを使いづらくなったなどの理由があったのか?

●事務局 使いづらいという状況はなく、単純に利用回数が多い小学6年生が卒業したということである。

◎会長 第1期の事業計画は、事務局としてどう評価しているか。

●事務局 待機児童数が大幅に減り、ゼロに近づいたことについては、完璧とは言えないまでも、ある程度順調に進んできたものと考えている。

(3) 報告事項

①待機児童数について

ア 保育施設

資料2に基づき、事務局より説明

イ 放課後児童クラブ

資料3に基づき、事務局より説明

【質疑応答】

○委員 待機児童が減ったことについては、良かったと思っている。ニーズ調査の結果で未就学児の保護者が一番望んでいるのが、待機児童の解消であった。市長が自ら待機児童対策会議の座長となり、待機児童対策緊急パッケージに取り組み、待機児童が大幅に減ったことは大変評価できると思う。ニーズ調査の結果は大事であり、未就学児の保護者のニーズで、待機児童の解消の次にニーズが高かったのが、保護者の経済的な負担軽減であった。新ステージプランの中で、日本一の子育て環境の実現とっているのだから、委員の方はじめ市の担当職員も、常に日本一というのを意識しながら事を進めていくというのが大事である。放課後児童クラブの方も待機児童が減ってきているということで、こちらでも大変評価したい。

確認だが、(他の分科会も含め)社会福祉審議会委員全員に、新ステージプランの冊子は渡しているのか。

●事務局 社会福祉審議会委員の全員に渡している。

○委員 保育施設と放課後児童クラブの申込み数に、コロナの影響はあったか。

●事務局 コロナの影響はない。

○委員 放課後児童クラブについて、コロナにより、家に居ることができるという理由で、辞める方がいる。待機児童数に直接結びつく訳ではないが、実態としては、学童クラブの利用者数が減ってきているという状況である。

○委員 保育施設の入所判定にAIを活用しているため、選択肢が増えてきているが、現場としては、兄弟が別々の保育施設に決まってしまうなどの問題がある。現場の受け入れる体制などを加味するなど、もう少し工夫すれば、もっと待機児童数が減ると思う。

②放課後児童クラブの公募について

資料4に基づき、事務局より説明

③保育施設の認可について

資料5に基づき、事務局より説明

④(仮称)福島市子どものえがお条例の骨子について

資料6-1 資料6-2 資料6-3に基づき、事務局より説明

⑤条例の改正について

ア 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

資料7に基づき、事務局より説明

イ 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例

資料8 資料9に基づき、事務局より説明

ウ 家庭教育保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

資料10に基づき、事務局より説明

【質疑応答】

- 委員 放課児童クラブの支援員の研修について、県が行わなくなったということか。
- 事務局 県も行った上で、中核市でも行えるようになったということである。
- 委員 地域型保育施設の連携先について、必要な措置を講じている場合は連携先の確保は不要とあるが、「必要な措置を講じている場合」とは、具体的にどのような場合か。
- 事務局 優先的な入所のための措置をとった場合のことである。例えば、優先的な大幅な加点をすることであるとか、利用調整において、地域型保育施設の卒園児が優先的に転園できるような措置をとることなどが考えられる。

(4) その他

①地域子育て支援センターについて

資料11に基づき、事務局より説明

(5) 閉会